



**•SHINY BEAST•**

..For Adult..

完全に閉鎖された闇の中で、  
わたしはひとり、  
膝をかかえ、ちぢこまって泣いていた。

こするとひりひりと痛むほど瞼を泣きはらし、  
嗚咽の声も嘎れ始めるくらい  
ひどく泣きじゃくっても、

涙はあとからあとから溢れてくる。  
泣いたってどうしようもないことは理解しているのに、  
流れ出る涙を止めることができない。  
ただわたしは、

息が詰まるほどしゃくり上げては苦しげに息を吐き、  
息を吐いてはまたしゃくり上げる、を繰り返していた。

わたしはこれからこの《孤児院》で、  
苦痛と孤独に苛まされながら生活しなくてはならないのだ。  
誰に言われたわけではないが、  
子供心にそれだけは直覚していた。  
身寄りもなく、生きるすべを持たないわたしたち兄妹は、  
そうするより他になかった。

周囲には暗闇が渦を巻いて立ちこめている。  
かかえた足の先もはつきりとは見えない。

時折なま温い空気が、布で擦るように

わたしの肩や脇腹や腿を撫でる。

わたしはそのたびに震え、さらに体を縮こまらせた。

喉を衝く嗚咽が、またその勢いを増してきた。

溢れる涙はとどまるところを知らない。

まとわりつく闇はこんなに生臭いのに、

あたりからは物音ひとつしない。

わたしのむせぶ声が、暗闇の中でぼやけたように反響する。  
それが、わたしの孤独をよりいっそう増幅させた。

# SHINY BEAST

PATRICIDE  
Presents.

突如、暗闇の中から無数の男の腕が伸びてきて、  
わたしの四肢を掴んだ。  
わたしは驚きと恐怖に身をよじり、  
手足をばたつかせて抵抗したが、  
闇の中の男たちのすさまじい力に、  
なんなく押しさえつけられてしまった。

わたしたちの腕はそのまま  
わたしの着ているものを  
力任せに脱がせはじめた。

わたしは泣き叫び、  
ひたすらやめてくれるよう懇願したが、  
無数の腕は意に介するふうもなく、  
わたしの身体から衣服を剥いでゆく。

一枚、また一枚と、  
わたしの身を包むものが少なくなつてゆき、  
そのたびに  
何処にあるか分からない  
男たちの眼から投げかけられる視線が  
熱味を帯びてくる。

五分もしないうちに、  
わたしは身にまとつていたすべての服を  
はぎ取られてしまった。

あられもない姿のわたしの身体を、  
男たちの掌が舐めるように撫でまわしてゆく。  
首筋……腋……二の腕……背中……尻……  
胸……腹……ふくらはぎ……腿……股間……  
虫が這い回るようなおぞましい感触に、  
わたしは思わず絶叫した。



ひとしきりわたしの身体を撫でまわし終えると、  
今度は闇の中から男たちの性器が伸びてきた。

わたしは恐怖に、  
喉の奥からかすれたような声をあげた。  
男たちは、わたしの全身に  
この醜い器官を突き立てるつもりのようにだ。

闇の向こうからは衣ずれの音ひとつしない。  
しかし、男たちのわたしを見つめる視線は  
さらに熱っぽく、  
粘りを帯びたものに変わってゆくのが分かる。

ひとりの男のものが、  
股間の弁をかきわけてわたしの体内に侵入してきた。  
突然下腹を襲った痛みにも、  
わたしは堪らず呻き声を上げる。

それを合図に、男たちは一斉に  
わたしに挑みかかってきた。

男根がもう一本、  
今度は尻の穴に突っ込まれる。

弓なりにのけぞり、  
歯を食いしばって痛みをこらえていた  
わたしの口を無理やりこじ開けて、

さらにもう一本がねじ込まれる。  
両手には余ったものを握らされ、

激痛に硬直した指で扱がざれている。  
股間に入ってきたものはさらに奥へと分け入り、

呼吸が苦しくなるほど突き上げてきた。



男たちの器官の先端から液体が迸り、  
わたしの身体に降りそそいだ。  
白く濁ったその液体は、  
わたしの顔、口腔、膣内、腸内を  
ねばつく感触とむせ返るような臭いで汚しつくし、  
だらしなく垂れ落ちた。

やがて、私の全身に突き立てていたものを引き抜くと、  
息も絶え絶えにうつ伏せに倒れたわたしを尻目に、  
彼らは闇の中へと消えていった。  
彼らが去った後には、  
股の痛みと、それとは裏腹な  
体芯の疼きが残された。

誰かがわたしの髪を優しく撫でた。  
わたしは直感した。

兄さんだ。

わたしはなんとか体を起こすと、

側で屈みこんでわたしを見つめる全裸の男性の姿を見た。

顔こそ闇にまぎれてよく見えないが、

少し頼りなげな全身の様子は見まごうはずもない。

兄さんだ。

兄さんがわたしのこと心配して見にきてくれたんだ。

ひどく犯されたため、下半身にはまだ力が入らない。

わたしは上体だけをももぞと動かし、

少しでも兄さんに近寄り、すがりつこうとした。



わたしの手が兄さんに触れようとした瞬間、  
暗闇から再び男の手が現れ、  
兄さんに向けて伸ばしたわたしの腕を掴んだ。  
さらにもう一本の手が、  
驚くわたしのもう片方の腕もねじりあげた。

両手を高く引き上げられて無防備な格好になったわたしに、  
兄さんがゆっくり近づいてきた。  
それにつれて、闇に溶けていた顔が次第にはっきりしてくる。

兄さんは薄笑いを浮かべている。

兄さんは怯えるわたしの動かない両足の間に  
腰をもぐらせると、  
屹立した男性自身を犯されたばかりで

きわめて敏感になつているわたしの秘所へと滑り込ませた。

兄さんが腰を突き上げ、

兄さんのものがわたしの最奥を叩きつけるたび、

わたしは苦痛の叫び声を上げて悶えた。

兄さんは薄笑いを浮かべている。

わたしの膣内に挿入された  
兄さんの男根から、

精液が放たれた。

兄さんの精液はわたしの内側を

勢いよく通り、

まるで身体のすみずみまで駆け巡っているような  
錯覚に陥る。

わたしは全身を震わせ、意識を朦朧とさせながら

背中から地面に崩れ落ちた。

兄さんは薄笑いを浮かべている。



身体の震えて目を覚ました。

息を切らしながら上体を起こし、  
わたしは額と顎を手の甲でぬぐうと、  
べつとりと汗がついた。

とりあえずあたりを見回す。  
村の人に頼み込んで貸してもらった部屋には、  
ベッドとクローゼット、  
それにわたしのわずかな荷物があるばかりで、  
それ以外は何もない。

カーテンを少し開け、窓の外を覗いてみた。  
眼前には名も知らない広葉の木が群生し、  
夜明け前の暗黒を吸い込んで鬱蒼としている。  
虫の音が、ガラスの向こうからかすかに漏れ聞こえてくる。

夢のなかのわたしがしていたように膝をかかえ、  
いま置かれている境遇を思い起こした。

ジュードたちとの旅を終え、  
行き場のないわたしは彼とともに  
ひとまずこの村に落ち着くことにした。  
ただ、シエル村での仲間が多く住んでいるジュードとは違い、  
わたしにはこの村に親族も顔見知りもない。  
たしかに村のみんなはわたしに良くしてくれる。  
私を憐れんでくれる。  
でも……

ふと、下着が濡れていることに気がついた。  
見ると、眠りながら秘所から溢れさせた液体が  
下着から染み出し、シーツの上にまで広がっていた。  
濡れて透け出した性器が、何かを求めるように  
布の上からでも分かるくらい激しく蠕動している。

われ知らず、ひくひくと蠢く秘裂に指を伸ばしかけ、  
わたしははたと動きを止めた。  
そして、手を引つ込めながら、  
こんな行為に出ようとした自分に愕然とした。

もう一度寝ようと思ったが、今晚はもう眠れそうにない。  
わたしはまた身を起こし、膝をかかえて縮こまった。

夜が明けるにはまだ遠い。

あの〜  
アーチボルトさん？

ここに来るように  
言われて  
来たんですけど……

ああ、  
待っていたよ  
ユウリイ

今後の君について  
訊いておきたいことが  
あつてね

……まあ  
とりあえず  
そこに座りたまえ







ここに集まった  
皆をはじめ  
村人全員が扶助しあつて  
何とか凌いでいるのが  
現状だ



われわれの事情を  
述べさせて  
貰うが……



知つての通り  
この村は  
シエル村の住人と  
われわれ脱走兵が  
新たに開墾した所だ

経済的には  
まったく  
無力にひとしい

いまは  
食う以上の収穫も  
望めないし  
外れと取引を交わす  
余力もない



こういう言い方は  
酷だろうが……

他所から突然  
やつて来た人間を  
やたらと受け入れる  
ような余裕は  
この村にはないんだよ

……え……

そんなツ  
何とかお願いします  
此処に居させて  
くださいッ!!

ト  
ト  
ト

他に行くところが  
ないんです  
私にできることなら  
何でもしますから……ッ!!

まあなんとか  
置いておけない  
こともないが……  
条件がある

性処理役として奉仕する  
つもりがあるなら  
村に置いてもいいが……  
どうかね?

この村には  
男が圧倒的に  
多いんだが……

精力を発散できる  
場所も相手も  
なくてね  
困っていたところだよ

見たところ  
かなりいいモノを  
持っている  
ようだし……

ヒ  
ヒ  
ヒ

……ッ!!

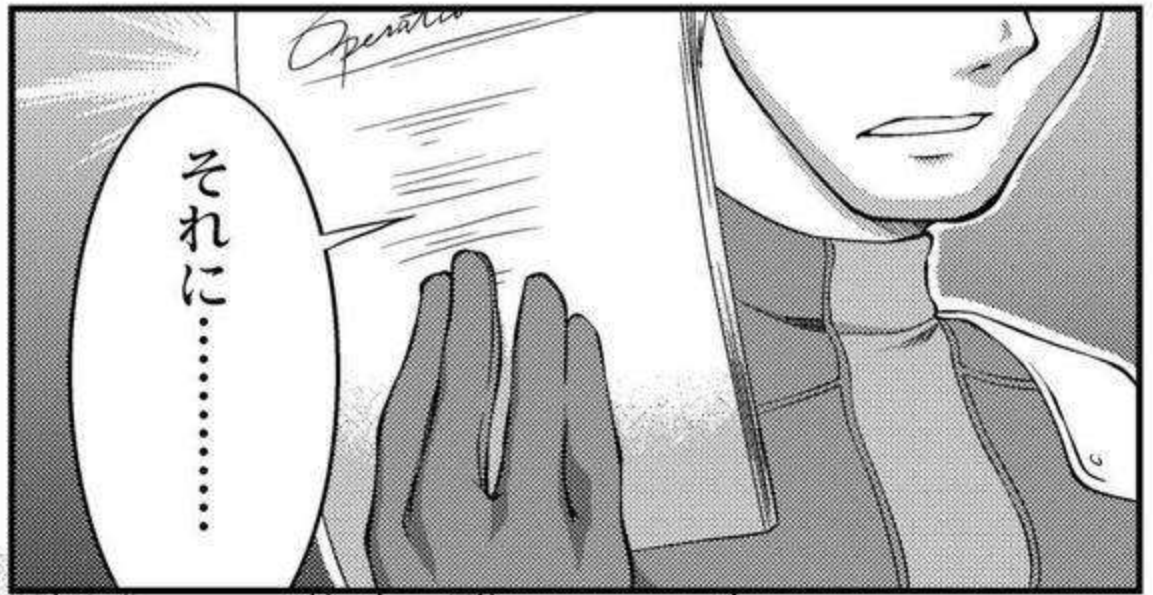
そ……そんな私……

できません  
そんなこと……ッ

ついさっき  
「出来ることなら  
何でもする」って  
言っただじやないか

そ……  
それは……

経験が  
ないわけじゃ  
ないんだらうか？



それに……



!!

『なお、  
本作戦における保護対象者  
WG920B+は、  
《孤児院》収容期間中において、  
研究員数名により  
同時に数時間にわたって  
性的暴行を被り、

そのうえ  
その後十回にわたり  
同様の行為を繰り返し  
受け続けた事実が  
同施設の研究資料より  
確認されている』

『また、同施設の  
看守の日記には、  
対象者は、  
施設員の目を盗んでは  
実兄であるWG919Fと  
姦淫に耽っていたとの  
記述もあり』

われわれが君を捕らえて  
シエル村に向かった時の  
作戦指令書には  
こう書かれているね

その提案……



受け入れれば本当に  
この村に居させて  
くれるんですね……？

……ああ……



それは  
約束しよう



……  
わかりました

やります



あ、あ

よしッ  
これで決まりだな！



ならばさっそく  
新人研修と  
いこうかね



おいいかい  
お前さんは  
これからの  
駆け出しの  
娼婦として  
この村で働  
くんのだぞ

きゃッ!!

ちよ……ッ

何するんですか  
いきなりッ!!

何も知らねえ  
新人さんにや  
お仕事のもの  
教えてやるのが  
当然だろ?

何するか  
って?

いま  
言っただじゃねえか  
研修だよ研修

わッ  
分りましたから  
乱暴にしないで  
くださいッ!!

ううッ……

分かったら  
さつさとその  
しち面倒くさい服  
脱ぎなッ!!



何してるんだ  
大事なところを  
手で隠してちや  
脱いだ意味がないだろう

こ……  
これで  
いいですか……

はやく  
手をどけて  
胸を見せてみな

……



そうそう  
いいねいいね



あッッ  
あッ  
もよよ

うん  
柔らかな  
かさも  
なかな  
かの  
もんだ



あッ!!

ぴりん



らぎッ!!



でつかい胸してゐるなあ  
とても15歳とは思えねえよ

ギッギッ



いやあッ

おおー伸びる伸びる  
こりやあいろいろ  
楽しめそうなおっぱいだ



おっぱい  
引っぱい  
ダメですツッ!!



ホレ  
せつかくいい胸  
してるんだ  
俺のモノを  
しごいてみなよ

あ……

グニ……

あ……

あ……

ん

うう……

半端じゃねえな  
この胸はツ  
すぐに出ちまいそうだよ



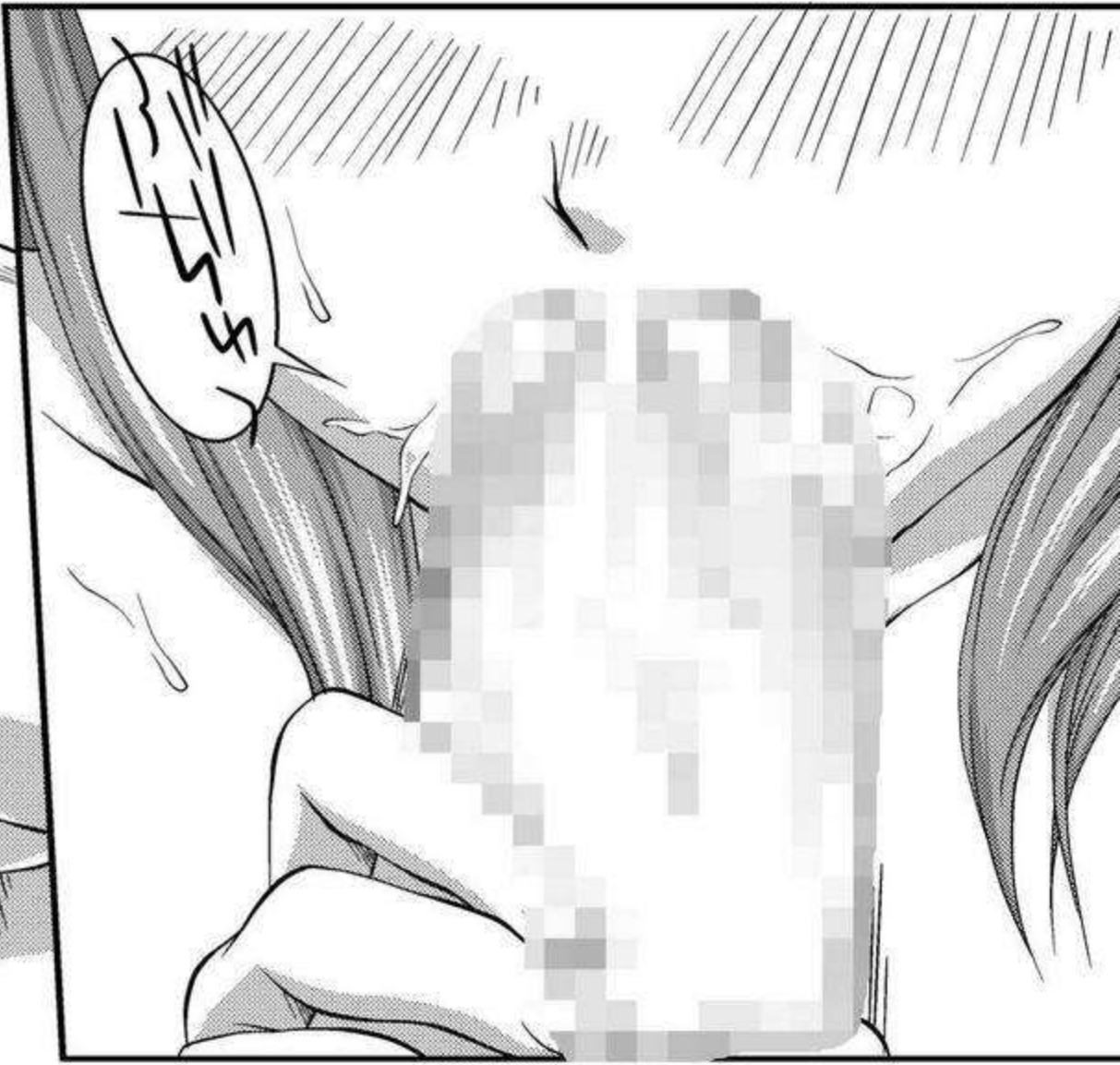
むッ

うむうッ

へッ  
慣れぶん  
ずいてるじゃねえか  
さては《孤児院》とやらで  
そうとう仕込まれたな？



じゃあこっちは  
口でして  
もらおうかな



ふむうツツ!!



さあ  
下も脱いで  
もらおうかツ!!



口と胸は  
かなりのものだが……  
本題はここからだぞ

まだへばるなよ  
これから下の方を  
試してやるからな



あツ……!!



おいおい何だよ  
触ってもいけないのに  
こんなに濡らしやがって

そんなに  
こつちでしてもらえるのが  
待ち遠しかったのかい?  
清纯げな顔だして  
やらしいんだな

やあ……違……

まずは指で  
掻き回してやろう

お  
おッ

お  
おッ

おあああ  
ああッ!!

ああッ!!

ぬ  
ぬッ

お  
おッ

お  
おッ!!

ひあッ

ぬッ抜いて  
下さいッ

おお  
だいぶ深くまで  
刺さるなあ

お  
おッ



あッ

あッ

あッ

やッ  
やッ  
あ……ッ!!

ズッ

ズッ

あッ

知らない男に  
指で×××××  
掻き回されて  
気持ちいいのかい?  
お前さん本当に  
スケベな娘  
なんだなあ



あッ

あッ

あ………?

ズッ

ズッ



ズッ

ズッ



あッ………!!

よし  
それじゃ次は  
自分で開いて  
おねだりしてみな

な……

思いっきり  
やらしくできたら  
続きをしてやるよ

お前さんだつて  
いきそうに  
なつたところを  
止められて  
ツライんだろう？

××××××××  
ひくひく震えてる  
じゃねえか

……お……  
お願いします……

わ……  
私のココに  
思う存分突っ込んで  
ください……ツ!!

あ〜ダメダメ  
そんなんじや  
ティーンが見ても  
興奮しねえよ

OH!

……ツ!!

私の  
いやらしく濡れた  
×××××……

皆さんの  
遅しい×××××で  
子宮の奥まで  
犯してくださいッ!!

よしよし  
よくできました  
ご褒美をあげよう

あッ……

はぐ……ッ

ッ……

ジュッ

あッあッあッ  
あッあッあッ!!

あッ

あッ

あうッッ

うあッ

そ……んな  
激しく……ッ

あッ  
あッ  
あッ

あッ  
あッ  
あッ

あッ  
あッ  
あッ





ほらほら  
悦んでないで  
口でもしてくれよッ

やっぱこの娘の口  
すげえイイぜ  
×××××に  
絡みついて来やがる

うむッ

んッ

ぶッ!!

へえ〜  
もしかして  
実のお兄さんの  
こぶな感じてたの  
かなえ?

おっと  
お尻の穴が寂しそうだね

まずは指で  
よーくほぐして……

俺のを  
入れてあげるよ

…ッ!!

んうッ……!!



ふむうツ!!

おふぐおおお  
おううツ!!

お

ん

そろそろ  
良さそうだな...





んぶううう  
うううツ!!

お  
りっ

んんーツ!!

お  
りっ

うむツ

お  
りっ

そらツ  
そろそろ  
イツちまいそうみたい  
だなあツ  
膣内がひくひく  
してきたぞツ

ぬ  
ー  
ッ



お  
りっ

お  
ぬっ

んむうツ

膣にも尻にも  
たっぷり出してやるから  
しっかり  
受け止めるよツ

お  
りっ

お  
りっ

いやあああ  
あああああ  
ああツツツ!!



ひあッ

ん  
ッ

ん  
ッ

ん  
ッ

ん  
ッ



よろしい  
では明日から  
さつそく  
頼むよ

うあぁッ

——もちろん  
求める権利は  
断るにはないから  
君のつもりで  
そのついで

あくまで村に  
「置いて  
もらっている」  
立場だということ  
忘れぬように

あ……

う……あ

せん

そんなわけで  
その後  
私は

お——い  
ユウリイ——

この村に  
置いて  
貰っています

今日は  
こつちで  
可愛がつて  
やるよ——

32

村の男性  
全員に  
玩具のよう  
扱われ……

はい……  
ありがとうございます

どうぞ今日も  
わたしの淫乱×××を  
ぐしよぐしよに汚して  
楽しんでいってください……

体中の穴を  
かわるがわる弄られ  
精液を全身に  
浴びせられながら……

## **-INTERMISSION-**

「5 t h」の情報が発表されましたけど、  
主人公の武器シャベルってなんやねん。  
もしかして、シャベル型ARMなののか？



男が四人ほど私の部屋にやって来て、  
わたしにオナニーを見せてくれとせがんできた。

わたしは服を脱いで全裸になると、  
机の引出にしまつてあるたくさんのデイルドーの中から  
二本を取り出し、  
片手で胸を弄りながら  
一本で自分の秘所の裂け目をなぞりはじめた。

ほどよく濡れたところで、  
もう一本の方を淫裂の奥へえぐり込み、  
自分の愛液まみれになつた一本を  
尻の穴にあてがいて、突き立てた。  
そのまま両手で、突き立てた。  
はまり込んだものを激しく出し入れする。

人前でのオナニー。  
その禁忌めいた行為に、  
はいっしかなかった。  
はしつた嬌声をあげつつ  
腰を前後に震わせ、  
玩具を入れたは出し、  
出しては入れ、入れは出し、  
夢中になつて耽つていった。

男たちはわたしの身体を、  
快楽を得るための道具を淫猥にもくわえ込んだわたしの両孔を、  
差し込み抜き出すたびに上下左右にたわみ揺れるわたしの胸を、  
食い入るように見つめていた。  
その目つきが、さらにわたしの悦楽の世界へと駆り立てた。

膣の中に入れた一本を奥の一点をはげしく擦ると、  
わたしが絶頂に達した。  
全身が硬直し、ふと意識が遠くなる。  
わたしは腰を突き出した格好のまま倒れこんだ。

息も整わず、股に刺さつたものも引き抜かないうちに、  
今度はわたしのオナニーを見守つていた男たちが  
わたしたちを襲いかかつてきた。  
男たちは、穴にはまってきたままのデイルドーを乱暴に抜き取ると、  
全員がかりでわたしを犯しはじめた……



ある日の昼下がりに、わたしは農具小屋の裏に連れてこられた。今日はここで屋外プレイをするのだという。

この農具小屋は、村で共同使用している建物なので、時間帯によつては頻りに人が出入りする。誰かに見つかりはしないかと案じたが、男たちはそんなわたしの心配をよそに服を脱いで態勢を整えはじめた。わたしも意を決して着衣をはずす。

プレイが始まり、男たちが思い思いにわたしの身体を蹂躪した。わたしは人が来ないか気が気でないので、声を押し殺しながらそれを受け入れる。

わたしの膣に挿入している男のものが、ふいにわたしの最も敏感なところを強く打ちつけた。脳天まで裂けるような快感が体を走り、思わず嬌悦の叫び声をあげてしまった。わたしの男は慌てて別の男のものをしやぶりつき、自分の回をふさぐ。

小屋の扉を開ける音がした。誰かが農具を取りに来たらしい。彼らはおとなしく察したようだが、さうらに激しくわたしの中をかき回し始めた。小屋の中は必死で声を出さないうちの間、わたしは必死で声を消え、人の気配がなくなつた頃、わたしは愛液を夥しく噴き出しながら、半ば失神するほど強烈に絶頂した。

その後、ぶつたりと緊張感の切れたわたしは、人が来ることなど忘れ、夕暮れ時まで男たちと交わり続けた……



わたしの尻から三本目のシリンドラーが引き抜かれた。  
流腸液が胃を逆流するような感覚をおぼえ、全身が寒気に覆われる。  
下腹部を襲う猛烈な便意と、一個の人間として耐えがたい恥辱に、  
わたしの身体はわなわなと震えた。

ここは便所ではない。  
村の広場を少し外れた、  
下草のない林の中である。  
ひとり男が、  
わたしが便秘に  
なっていることを聞きつけ、  
この「ム開脱糞シヨール」を  
提案したのだ。

普段は木のすいた林の中に、  
今は十人あまりの男が、  
ひしめくように集まり、  
尻をむき出しにして  
腰を落としたりわたしを中心に  
田を描いて立ち並んで、  
期待するような目つきで  
わたしの肛門を注視している。

肛門が焼きこてを  
押しつけられてるように熱い。  
少しでも気を抜くと便をぶちまけてしまいそうだ。  
男たちが盛んに「はやくしたてるなか、  
わたしが奥歯をかみ締め、  
あらんがぎりの力で便を体内に押しとどめていた。

業を煮やした男の一人がわたしの尻を足で小突くと、  
一週間のあいた溜まりに溜まった大便が堰を切ったように溢れ出る。  
わたしは何とかして止めようと力んでみるが、  
四肢にまつたく力が入らず止められないどころが、  
くわえて尿までもが漏れ出してしまえばさらなる辱めをわたしに与えた。

林の中に男たちの歓喜と嘲弄の笑い声が響く。  
わたしはただ、あまりの恥ずかしさに顔をうつむけながら、  
一刻も早くこの奔流が終息してくれるのを待つことしかできなかった……



あれから十年が経った。  
わたしは望みかなって教師になり、  
村で教鞭をどつていて。  
毎目子どもたちを困ませ、  
普段はやさしく、時にはすこし厳しく、  
彼らを教え諭している。

だが、十年前の呪縛は、まだ解けてはいない。

わたしが教師になって以来、  
卒業式の夜にわたしが卒業生の男子全員の  
筆下ろしをするのが恒例になっている。  
今年もまたその目がやってくる。

男子の卒業生を部屋に招き入れ、  
お祝いはわたしの身体を好きに舐めていいと告げると、  
彼らは戸惑った様子で顔を見合わせた。  
しかし、わたしが服を脱ぎ去り、  
脚を広げて再び誘うと、  
彼らは股間をいきり立たせ、  
次々にわたしの押し掛かってくる。

彼らの愛撫は、ぎこちなく、  
技巧も稚拙ではあつたが、  
それがゆえにかえつて、  
わたしも身体のかえつて、  
彼らも愛し、彼らを快感に導いた。

彼らはそのありあまる性欲で、  
わたしの身体をすみずみまで征服した。  
子宮も腸もあまさず彼らの放つた熱泥で満たされ、  
肌という肌は彼らの進りに覆い尽くされた。

夜明け頃に彼らは帰っていった。  
わたしの精液は、彼らに自分の愛液の  
混ざった匂いに陶然とし、  
眠りに落ちた……

## **-POSTSCRIPT-**

毎度。ジョン湿地王です。  
今回はユウリイ本でしたが  
如何でしたでしょうか。  
6月～7月あたりは  
個人的理由でゴタゴタしてしまして  
あまり作業時間が取れなかったんですが、  
なんとか描き上げることができてひと安心です。

今後のイベントについてですが、  
10/1のサンクリに参加を予定しています。  
ただ、幸か不幸か、  
現在商業誌執筆のお話をいくつか頂いてしまして、  
これからそちらの作業に  
かかることになるかと思いますので、  
ちょっとオフセでの新刊発行は無理そう……。  
申し訳ない。

そんなわけでまたいずれ。

2006.7.31 ジョン湿地王

## **-IMPRINT-**

誌名：SHINY BEAST  
2006.8.13 初版発行  
著者：ジョン湿地王  
<sitch\_oh@hotmail.com>  
発行：PATRICIDE

”Gazette”

[http://www.sango.sakura.ne.jp/~sitch\\_oh/](http://www.sango.sakura.ne.jp/~sitch_oh/)



PATRICIDE  
Presents.

•SHINY BEAST•

..For Adult..

PATRICIDE

Presents.

